



大学における皮膚科の専門研修について

古川 和仁 皮膚科 医員

平成28年3月 弘前大学卒

皮膚科研修プログラム 平成30年度開始

医学部在学時から志望科を決めている方、研修医になってからも志望科を決めかねている方、人によって様々だと思いますが、私は後者のタイプでした。1年目を市立函館病院、2年目は弘前大学医学部附属病院で研修し、最終的に皮膚科に決めたのは2年目の夏頃でした。現在は大学病院に勤務する一方で大学院にも在籍しており、臨床と研修を両立させた日々を送っています。

皮膚は人体最大の臓器である、とはしばしば語られますが、標的を皮膚に絞っている分、診断から内科的治療、外科的治療、さらには病理診断まで自己完結的に行える点に魅力を感じました。実際に自分の目で見て臨床経験を積むことが非常に重要な科であるため数多くの症例を経験する必要がありますが、大学病院で専門的な症例を数多く経験する一方で、入局1年目の4月から外の病院へ皮膚科医として外勤に出ており、commonな症例も多数経験することができています。

比較的人数が少ない科ではありますが、裏を返せば一人あたりが活躍できる範囲が広いということでもあり、入局1年目から科の立派な一員として日々楽しく仕事をしています。もし興味を持たれた方がいたら是非一度連絡ください。一緒に楽しく働きましょう！